パーマネントコース
レポート

朝霧コース 静岡県

大高竜亮

**日本の象徴・富士山。ここにはパーマネントコースが多く作られた。
富士の雄大な景色を楽しみながら巡るコースを紹介しよう。**

朝霧」コース 静岡県 No.1
JOA 公認 No.60 13㎞ 10 ポスト

雄大な富士山の懐に抱かれて

富士山麓にも多くのパーマネントコースが設置されてきました。その先陣を切ったのが、この「朝霧」コースです。静岡県下では 1 番の登録ナンバーを付けられていますが、実際は閉鎖された「伊豆下田爪木崎」コースに次いで 2 番目の開設となります。コースの歴史は 30 年有余。現在のコースは 1992 年にリニューアルされたものです。

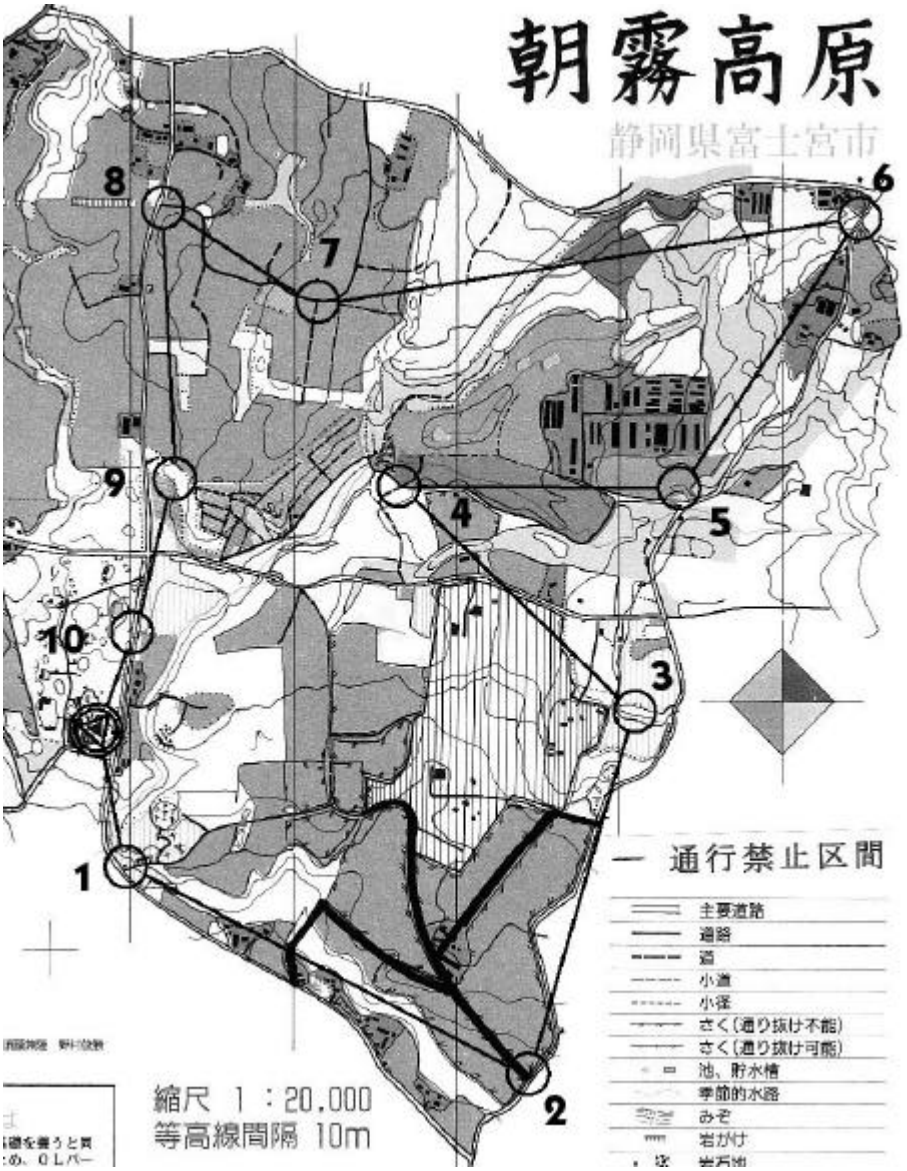
「御殿場東山湖」曇、「花鳥山脈」雨、「富士愛鷹、丸火」濃霧、更新前の「朝霧」が豪雨。静岡県の富士山麓のコースでは、何故か悪天候。富士山はいつも雲の中で、富士の麓の実感を味わったためしがありません。

5 度目の正直となったこの日は、鬱憤を晴らすかのような見事な晴天。富士の懐に抱かれているような気分で歩くことができました。

スタート案内がない！

旧「朝霧」コースへの挑戦は 1991 年 8 月のこと。埼玉大 OLK 在籍時の夏合宿の或る 1 日。あまりの激しい雨に練習が中止となり、傘をさしながら、宿から最寄りのこのコースを歩いてきたのです。当時のコースは、わずか 7 ポスト。現在の第 6～8 ポストのない、短い設定でした。

スタート地点の「静岡県立朝霧野外活動センター」へは東名高速富士インター、もしくは中央自動車道川口湖インターから共に 30㎞、約 35 分です。1996 年に改築されて様相を一新した野外活動センターのフロントでマップは販売されています。1 部 50 円。1992 年の調査で通行可能度入りの O-MAP。最もハンディーな A4 判です。マップを請うと



「最近は使われていませんからねぇ」と、いつものことながら待つことしばし。マスターもやっとこ出てくるといった有様では、パーマネントコースがなんのための施設なのか疑わしく思えてきます。更には「北側のポストは倒れているかもしれません」と。気付いているのなら直してしかるべきところ、利用されていないものなら仕方のないことかと諦めつつ、スタートの準備へ。

以前からそうでしたが、ここにはスタート地点を示す案内板はありません。野外活動センターを訪れても、オリエンテーリングコースの存在に触れる術さえない状況。悲しいものを感じます。

10 年前の更新に伴い、5,6,7,8,13㎞の 5 コースが組まれました。全 12 ポストのうち、それぞれ 5,7,7,8,10 ヶ所のポストを巡ります。13㎞のコースは「サイクル OL」と記されていますが、今回はこの最長コースを歩いて来ました。

富士を眺めつつ歩く一帯は、起伏の少ないなだらかな地形。ルートの大半が自動車道路という初級向きの設定となっています。そのため、だらだら歩きの退屈感は正直否めません。東端の道路は交通量も多く、十分な注意が必要です。

コースあっさり、景色雄大

野外活動センターの東を南北に走る道路を下り気味に進むと、至近距離にある第 1 ポストにはあっさり到達します。更新されたポストは、大阪の公園コースに設置されたものと同タイプで、頭の蓋がなくオレンジの塗り分けが特徴。10 年間、風雪に曝され、塗料の剥離が進行しています。

第 2 ポストも同じ道。一歩一歩大きくなる富士の姿を仰ぎながら、1.4㎞先にある突き当りまでひたすら歩きます。県道 71 号線を北に転じると、ほどなく広大な牧場の角にある第 2 ポストが目に入ります。首を傾げてやや辛そうな態勢です。

1991 年当時は欠損していた第 3 ポスト。予め「ここはありません」と告げられてはいたものの、念入りに探し回った思い出のある場所です。捨てられた車の奥に続く杉林の中に、あの日はなかったポストが置かれています。

地図をみると西側には立入禁止区域。ここは「白光真宏会」の富士聖地。1955 年に設立された宗教法人で、富士聖地は 1980 年に「富士道場」として開設されたもの。この日は集会でもあったのか、観光バスも含めてひっきりなしに行き交う車が見られました。

十字路を左折し、富士聖地の宝山入口の前を通過。このあたりは妙な異臭が漂い、息苦しさを覚えます。里道を北に向かうと、第 4 ポストは舗装道路との分岐であっさり発見。さらに、谷沿いのひっそりとした道路を東に向かうと、こぶの上で第 5 ポストが確認できます。

県道に戻り、北に向かうと、ここからは山梨県上九一色村に入ります。都府県境をまたぐコースはこの他、大阪府「くろんど池」コースや「暗峠」コース（ともに奈良県に入る）などがあり、特に「くろんど池」は池そのものが奈良県にあります。

車を避けながら１㎞ほど歩くと第 6 ポストに到達。話の通り、引き抜かれて道路脇に倒されていました。三角頭もゆがみ、哀れな状態です。

第 7 ポストまでは長い長い道のり。道路をただただ歩きます。再度静岡県に戻り、朝霧カントリークラブを過ぎ、富士市に本社を持つ、健康食品や化粧品のメーカー「富士バイオ」の工場前までくると、ポストへの分岐は目の前。分岐から南に向かうと、残すは 700m。近くに来てもポストが見当たらないのは、やはり横倒しになっているため。ここだけやや小型のポストながら、起こしてみると富士山とのコントラストが絶妙。しっかりと写真におさめ、第 8 ポストへ向かいます。

ここはクランク状の道なりに進むだけ。無防備なポストはいとも呆気なく姿を現します。牧場越しに見える富士が印象的に映るところです。

南への一本道から東側に見える林に分け入ります。第 9 ポストは道からかなり離れた地点に置かれているため、探す楽しみが味わえます。

「いちばん状態が悪い」と言われていたのが最終ポスト。十字路を過ぎてすぐ、キャンプ場に入り、フェンス沿いの林を進みます。すると、極めて小型で古びたＴと記されたポストに遭遇。確かに酷い状態でしたが、あまりにこれまでのポストとのギャップがあったため、これは素通り。ほどなく、標準サイズの本物のポストがひょっこり顔を覗かせます。確かに奇妙な年季を纏い、設置年度も他のものよりも古いようす。ポストの形も異なっています。旧コースに使われていたものでもなく、謎のポストです。林を抜けると、センターはもうすぐそこ。

オリエンテーリングとしての面白味にはやや欠ける嫌いはありますが、富士の麓でしか味わえない壮大な気分を満喫できるコースです。スタート地点に何らかの案内は欲しいところですね。

（2004 年 3 月 14 日踏破）

（大高竜亮）